

令和5年度 本宮市総合教育会議会議録

1 日 時 令和5年11月24日（金） 午後3時30分～午後5時00分

2 場 所 本宮市役所 3階 大会議室

3 出席者	市長	高松 義行
	教育長	松井 義孝
	教育長職務代理者	谷 明子
	委員	渡辺 俊之
	委員	古宮 博文
	委員	遠藤 傳一郎

4 事務局職員	総務政策部長	荒川 貞伸
	政策推進課長	石橋 淳
	政策推進課政策推進係長	武藤 正昭
	教育部長	八木 一志
	教育部次長兼生涯学習センター長	根本 享史
	教育部次長兼幼保学校課長	川名 美和子
	上席参事兼たかぎ保育所長	渡辺 美紀
	参事兼白沢公民館長兼歴史民俗資料館長	鈴木 雅文
	参事兼教育総務課長	安藤 守
	指導主事	大野 武文
	国際交流課長	鈴木 哲史
	教育総務課副主幹兼総務係長	野内 千恵

5 傍聴人 なし

6 協議事項

(1) 教育分野の課題・問題点等について

- ①学力向上について
- ②適応指導教室「すまいる・るーむ」の開設場所について
- ③部活動の地域移行について
- ④自校給食と給食センターの一本化について
- ⑤白沢地区幼稚園の今後の在り方について
- ⑥保育士不足の解消について
- ⑦医療的ケア児の対応について
- ⑧英国との交流事業について
- ⑨文化団体連絡協議会加盟団体の減少について
- ⑩歴史民俗資料館の活用方針について

7 審議経過

【午後3時30分開会】

◇市長 [あいさつ]

【協議事項】(要綱により市長が石橋政策推進課長を議事進行者に指名)

◇石橋課長 ①学力向上について、②適応指導教室「すまいる・るーむ」の開設場所について、③部活動の地域移行について、④自校給食と給食センターの一本化について八木教育部長の説明を求める。

◇八木部長 [①学力向上について、②適応指導教室「すまいる・るーむ」の開設場所について、③部活動の地域移行について、④自校給食と給食センターの一本化について説明]

◇石橋課長 ①学力向上について、②適応指導教室「すまいる・るーむ」の開設場所について、③部活動の地域移行について、④自校給食と給食センターの一本化について意見を求める。

◇市長 ①の学力向上については、3年程前の会議にも一度挙げさせて頂いたと思われる。ここ数年、全国レベルに対して、本宮市を含め、福島県の学力の低下が著しくなっている。学力向上対策については、毎年の身近な目標設定はどうしていくのか、成績をあげるために何をしていくのかという細かい設定をしていく必要があると考えている。市や県が進める移住定住等を考えた時に、学力の問題は、1つの大きな課題になっている。教育は学力だけではないとは承知しているが、今の状況で本当に良いのだろうかと考えている。教育委員の方々にご意見いただければと思っている。②のスマイルルームに関しては、あぶくま憩いの家でやりたいという話は聞いているが、どういう問題点があって、執行部側として何をどうしていけばいいのかを教え頂きたい。また、委員の皆様からスマイルルームに対する考えについてお伺いしたい。

③の部活動の地域移行については非常に難しく、今まで学校中心にスポーツ振興を行ってきて、部活動を民間に変えようとしてもなかなか変えられる話ではないと思われる。市として今後変えていくために具体的に何をしなければならないのかを、委員の皆様と協議できればと考えている。

④の自校給食の一本化のためには、新しい給食センターを造らなければならないと考えている。課題は、プラットフォームの改造と、現在、働いている方々をどうしていくのかだと考えられる。合併して15年が経っているが、こうした点をどう考えるか委員の皆様のご意見をお伺いしたい。

◇八木部長 スマイルルームの課題としては、施設の整備にかかる費用と、現在、地域の方々が利用されている施設ということから、地域に対する理解を得ることが1番の課題と捉えている。現在、地域の役員の方々への説明の場を設け、協議をしたいと考えている。

◇市長 スマイルルームについては、教育委員会として、あぶくま憩いの家で大筋進めるということではよろしいか。

◇八木部長 教育委員会として、あぶくま憩いの家に移転したいと考えている。

◇市長 委員の皆様はそのような方向性で良いか。その方向性で進むということであれば、予算の措置が必要だと考えている。関係団体との調整も教育部だけでやれる話ではないと考えられる。

◇古宮委員 以前、教育委員会で協議されたが、あぶくま憩いの家に移転するという方向性について、委員からは異論は出なかったと理解している。暖房設備が必要であるという課題はあるが、あぶくま憩いの家が1番良いのではないかと考えている。

◇市長 スマイルルームのあぶくま憩いの家への移転については、今後、予算措置を考えていきたいと思う。また、現在の利用者の方々と一緒に活動できるような環境をどう整えるかは、教育部がリーダーシップを取り、関係部署との調整をお願いしたい。

◇遠藤委員：学習状況調査の本市の結果について、以前の教育委員会で協議したが、対策が必要な状況だと捉えている。数学と英語が特に対策が必要である。目標や結果に対するチェックが不十分ではないかと考えられる。現在、先生方で構成されている学力向上対策委員会に教育委員なども入り、学力向上対策の議論が必要ではないかと考えている。

◇谷委員 本宮の人口を増やすために、学力問題は解決すべき1つの問題だとは考えるが、本市だけではなく県も本気でやらないといけない問題だと考える。学校だけの対策では不十分であり、塾環境や高校のレベルなど、大学受験を目標に据えた総合的な対策が必要だと思われる。

一方で、アンケート調査の結果を見ると、子供たちが幸せであると感じる割合が高い学校があり、そうした点は定住を進める上で、アピールしていくことが大切だと思う。

また、市として学校は何をするところであるかということを確認にする必要があると考えている。例えば、学校は学力向上と集団生活に必要なコミュニケーションを学ぶ場であるという方針を明確に出すことで、学校の先生達も指導しやすくなるのではないと思う。長期的なスタンスにはなるが、学力が向上していくきっかけになると思う。

スマイルルームの件については、あぶくま憩の家は改修をして、市民の方が利用する場は新築部分であり、スマイルルームは古い部分を利用するという考えであると聞いているため、教育委員会では異論は出なかったと認識している。

◇市長 スマイルルームについては、まだ市民の方が利用する場所との調整が済んでいない状況である。スマイルルームとして利用するというのであれば、それに見合うハードの整備をしていくのも市の仕事であると考えている。市ができることと教育委員会がやらなければいけないことを考えながら進めていくことが大切だと考えている。

◇谷委員 現在、スマイルルームを利用している方は、送迎ができる保護者のお子さんであるため、スマイルルームが必要なのに通えないお子さんがいることのないように、改善する必要があると考える。

◇市長 この問題については、まず教育委員会の中で協議していただければと思う。協議の中で課題が出されれば、市としてできることは行っていきたい。例えば、送迎ができない方への対応として、公共交通を利用していただくために、特別にまちタクのカードを預けてその分は市で支払うなどの対応を考えることができる。教育委員会の中で協議をしたうえで、要望等があれば、解決できる方法を探していきたいと考えている。

◇渡辺委員 市の教育委員会として、ベクトルを合わせるために、学力向上に関する宣言をすべきであると感じている。学力向上には学校教育だけでは不十分であり、家庭学習が絶対的に足りないと感じている。以前、視察をした秋田県では、学校だけでなく家庭の意識も高く、家庭の学習時間が多かった。

◇古宮委員 なぜ学力向上が必要なのかを考えたときに、学力向上は生き抜く力を高めるために必要であると考えている。自分の命を大切にし、自己肯定感を持ち、どんなことがあっても生き抜く強い力を養うために学校があるのだと思う。学力向上は、そうした力を養うためのツールの一つであると感じており、アクティブラーニングといった、子供達が疑問に思うことを大切にしていける教育も必要だと考えている。

◇市長 本市や福島県の学力が全国より下回っている状況において、学力向上対策を行っていくのは、義務教育を提供する市として行わなければいけないことだと考えている。遠藤委員のおっしゃるチェックをいかにしっかり行っていくかが大切だと考える。非常に高い学力を小学校、中学校で身につけるということではなく、高校や大学など次のステップに移るために、必要な学力を身につける

必要があると考えている。こうした状況のなか、街の幸福度ランキングが本市は1位であり、そうした環境に子供たちが暮らしていけるということを市としてしっかり守らなければならないと考えている。学校教育のなかで、教師以外の外からの視点や評価も必要だと考える。先生と生徒が本気になって議論を行うアクティブラーニングも必要な取組みだと考えるが、まだ行えていない状況である。こうした取組みをいきなり行っていくことは難しいかもしれないが、こうした取組みをどのように行うのか議論していく必要があると感じている。



◇石橋課長 ⑤白沢地区幼稚園の今後の在り方について、⑥保育士不足の解消について、⑦医療的ケア児の対応について八木教育部長の説明を求める。

◇八木部長 〔⑤白沢地区幼稚園の今後の在り方について、⑥保育士不足の解消について、⑦医療的ケア児の対応について説明〕

◇石橋課長 ⑤白沢地区幼稚園の今後の在り方について、⑥保育士不足の解消について、⑦医療的ケア児の対応について意見を求める。

◇市長 ⑤白沢地区の幼稚園のあり方について、現在の状況を続けていくべきなのかどうか検討が必要だと感じている。こうした中、1つの案として、教育委員会の事務方から認定幼保園の形について意見が出された。現在、五百川幼保総合施設で保育を行っているが、現場の先生からは保育がしづらいという意見も少しながら出されている。こうした現場の先生方の意見を反映したうえで、白沢地区幼稚園の在り方を考えていかなければいけない。第2保育所と第3保育所の改修をする際に、一緒に整備する案については、保育士から反対の意見が出されていた。認可保育園を整備する場合は、どのような規模と形にするのか、今ある白沢保育園も含めた中で、様々な意見を教育委員の皆さんから伺いたい。⑥保育士不足については、慢性的に保育士が不足している状況である。対策として保育士を派遣してもらいようにし、成果があったと感じている。また、制度として保健師を0歳児の保育として入れることで保育士数として数えることができる。こうした制度を今後、どのように活用していくのか、教育委員の皆さんのご意見を伺いたい。⑦医療的ケア児については、市側が教育委員会に対してどのようにバックアップできるのか考える必要がある。現在、保育現場において、医療的ケアが必要であるということは聞いている。市側の進むべき方向性について、教育委員の皆さんのご意見を伺いたい。

◇谷委員 白沢地区の幼稚園と保育所4施設をまとめて認定こども園にするのはどうかと考えている。そうすることで保育士の負担が減るのではないかと思う。市長が先ほど話をした五百川幼保総合施設の件について、保育士の負担は、幼保園が保育所と幼稚園に分かれている部分が保育士の負担があるのではないかと感じている。認定こども園として大きく1つにすることで、保育士不足の問題や幼稚園で給食がないことへの不満等が解消できれば良いと考える。

医療的ケア児の件については、保健師で対応する場合は看護師の資格も必要ではないかと考える。

◇市長 採用試験では2つとも資格を持ってないと採用できないとはなっていない。保健師を採用する場合は、保健師の資格を持っていれば良いが、看護師の資格を持つ方が多いと思われる。

◇谷委員 確かに、保健師の資格を持っている方は看護師の資格を持っていることが多いと思われる。しかし、現在、看護師も介護福祉士も様々な現場で不足している状況である。こうした状況のなかで、病児保育の場合は、こおりやま広域圏で預かってもらう体制が取れている。医療的ケア児の場合も、広域的に検討してみる必要があると考える。

◇遠藤委員 以前に伊達市保原を視察した。その際に視察した認定こども園は魅力を感じた。先ほど谷委員が話したように、保護者から幼稚園に給食の提供がないことに不満が出ている状況もある。

現在の幼稚園は少人数での園運営となっているが、集団生活は少人数では体験できないことだと思う。白沢地区については、認定こども園の様な形の方向性を考える必要があると思う。

◇渡辺委員 現在の白沢地区幼稚園については、小学校と幼稚園の連携が取れていることが魅力だと感じている。幼稚園のみではなく、小学校についても同様に議論していかなければならないと思う。

◇古宮委員 白沢地区の幼稚園はいずれ一本化すべきと感じている。第2保育所と第3保育所と一緒に整備する案に保育士が反対だった理由等を確認しながら、検討していく必要がある。

◇市長 第2保育所と第3保育所の件は、一緒に整備すると規模が大きすぎるという意見が多かった。渡辺委員のおっしゃるとおり、幼稚園と小学校の連携は必要であるが、立地の面で考えると、幼稚園と小学校の距離はあって良いのではないかと思う。小学校入学時に環境が変わることは子ども達の刺激になるのではないかと思う。幼稚園の給食提供について、どのくらいの保護者が要望しているのかなどを調べたうえで、検討していく必要がある。

保育士不足の解消については、継続して対策が必要な問題である。教育委員会から要求される保育士の数は必ず確保するようにしているが、まだまだ足りないのではと考えている。保育士の採用と併せ、保育士の離職率をどう下げていくかも考えなければならない課題だと感じている。

医療的ケア児の対応については、広域的な視点も取り入れながら、連携できる枠組みが存在する場合は検討していく必要がある。



◇石橋課長 ⑧英国との交流事業について、⑨文化団体連絡協議会加盟団体の減少について、⑩歴史民俗資料館の活用方針について八木教育部長の説明を求める。

◇八木部長 〔⑧英国との交流事業について、⑨文化団体連絡協議会加盟団体の減少について、⑩歴史民俗資料館の活用方針について説明〕

◇石橋課長 ⑧英国との交流事業について、⑨文化団体連絡協議会加盟団体の減少について、⑩歴史民俗資料館の活用方針について意見を求める。

◇市長 ⑧英国交流については、県知事との懇談の中で、県も全面的に協力することや、事業を継続して行うことの必要性について話が出された。特に子供たちの交流については、中学生など感受性豊かな時期に異国へ行って異国の文化を体感してくる事がとても非常に大きなことだと感じている。ダヴェナント・ファンデーションスクールという連携できる学校と関係を築くことができ、今後も交流を続けていければと考えている。もう1つの方向性として、ケンジントン&チェルシー王立区と友好都市に向けて、どのような形の中で進んでいけるのか、検討していきたいと考えている。王立区の格式はとても高いが、王立区長がとても友好的な方で良い関係を築けている状況だと感じている。こうした関係性を大切にしていくことで、次のステージに移ることができると思っている。白沢ふれあい文化ホールで、ボタニカルアートや英国自動人形の展示を年に1度、英国らしいものとして企画してきた。今年のボタニカルアートとウェッチウッド展もとても人気があった。ポール・スプナーの自動人形は、議会の承認を得て、本宮市のコレクションとして入手することができた。来年度の事業になるが、白沢ふれあい文化ホールを改修し、雰囲気を変えて再オープンしたいと考えている。しらさわ夢図書館を改修したが、改修後は利用者が3割増加している。また、白沢公民館も新しくなるなど、この地域は白沢の文化の中心ではなく、本宮市の文化の発信の拠点の1つとして位置付けしていければ良いと考えている。しらさわ夢図書館に行くと、子供さんたちがじゅうたんに寝そべて本を読んだり、屋外テラスでお母さんと2人で本読みをする光景を目にすることができた。⑨文団連の件については、コロナの影響が非常に大きいと感じている。改めてもう一度支援をしていかなければいけないと感じている。現在、文団連に限らず、様々な団体も高齢化

している。⑩歴史民俗資料館の件については、どのくらいの経費で建物の保存ができるのか、歴史民俗資料館としてどういう形が一番良いのかを考えていく必要がある。

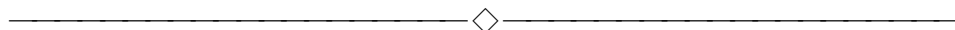
◇谷委員 英国交流事業については、中学生や小学校高学年のお子さんの保護者は、英国にいけるように勉強などを頑張ろうという雰囲気が醸成されている。今後も長く続けるべき事業である。文団連の加盟団体の減少については、若い方たちの団体は市内でそれなりに存在していると認識しているが、文団連に加入する団体が少ない状況にあるのだと思う。若い方たちは、メリットやデメリットを考えて冷静に判断する考えがあるように感じる。文団連に加入するメリットを発信しながら、新しいことを考えて行っていく必要があると思う。

◇遠藤委員 国際交流事業は継続することに意義があると思う。渡英する中学生の人数を増やしていければと思っている。国際交流を推進し、市民が成果を享受させていくには国際理解を進めていくのが大事だと思う。いろいろと事業を仕掛けていくことが大事と思う。中学生は全員英検もチャレンジし市も助成する事業など、子供たちのチャレンジする姿勢を奨励し学力向上へ繋げていくなど、アイデアを出していくべきである。

◇教育長 国際交流事業については低学年から中学校まで一つの流れを作っていきたい。英国交流、異国の文化に触れ合うことが自分の地域を知ることにも繋がると考えている。

◇市長 英国との交流事業については、英国派遣の生徒の人数を増やしたいと考えているが、費用の面もあるため今後検討していきたい。英検の全員受験に関する事業は、教育委員会の意見をまとめて提案して頂ければと思う。子供たちがチャレンジをする機会を与えることはとても良いことである。教育委員会で実施したいということであれば、市は予算について検討していきたい。国際交流事業については、小学生の低学年から進めるというよりは、文化や歴史等を知り、興味や関心を持ち始める中学生の時期に行っていくことが大切だと考える。

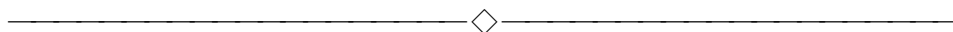
文団連加盟団体の減少については、新しい切り口作っていかないと対策が難しい問題だと感じている。加盟することのメリットなどを明確に示し、発信していくことが大切だと考えている。



◇石橋課長 今後の協議の進め方について意見を求める。

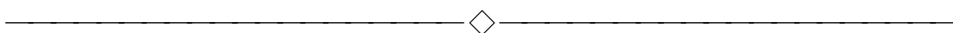
◇市長 次回の協議は優先順位をつけて集中した話し合いを行いたいと思っている。教育委員会と市長部局が共に同じ方向を見て、施策を推進していくことが必要だと感じている。そうすることが市民の方々や、議員の方々の施策に対する理解度が高まると思う。

今回のふくしま駅伝について、総合順位 11 位は素晴らしい成績であるが、まだ道半ばだと感じている。活動の基礎となる環境を作っていくのが教育委員会や市長部局の仕事である。今できることを精一杯やっていくことで将来何らかの形で結果が出てくると思っている。教育委員会と市長部局が議論を交わし、お互い同意できたものについては強力に進めていくことをお願いして、御礼とする。



◇石橋課長 協議を終了する。

【協議終了】



【午後 5 時 0 0 分閉会】